

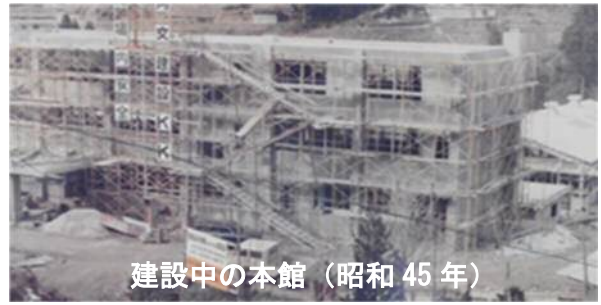
■山間農業研究所

昭和時代



全景（昭和 41 年頃）

稲橋分場（昭和 28 年度～）



建設中の本館（昭和 45 年）

山間技術実験農場（昭和 45 年度～）



いもち病特別研究現地検討会（昭和 53 年）
昭和 42 年に稲育種指定試験地となり、いもち病抵抗性と耐冷性を兼ね備えた品種の育成に取り組んだ。



ミネアサヒの育成（昭和 55 年）
ミネアサヒのほか、チヨニシキ (S59)、サチイズミ (S61)、ココノエモチ (S63) 等中山間地に適した優良品種を育成した。



キャベツ萎黄病耐病性検定（昭和 49 年頃）
当時、イチゴ、ブロッコリー、インゲン等様々な野菜の導入試験が行われた。沖ノ平ではキャベツの萎黄病検定が行われた。



ジネンジョのパイプ栽培試験（昭和 58 年頃）
ジネンジョ産地の拡大と生産安定を図るため、栽培法の改善と優良系統の選抜を開始した。



シンビジウム品種適応性試験（昭和 60 年頃）
昭和時代の種適応性、温度管理技術等に関する研究成果は、平成時代の開花調節技術、品質向上技術の開発へと発展した。



シクラメン底面給水栽培試験（昭和 63 年）
省力的かつ高品質・均一栽培が可能な生産システム「底面給水栽培」の研究を開始した。

平成時代



稲武大橋より（平成 28 年）



公開デー（平成 22 年第 1 回）

山間農業研究所（平成 6 年度～）



実証展示ほの風景（平成 10 年頃）



峰の星（平成 25 年育成）



夢山水（平成 10 年育成）の日本酒

中山間地に適する良質・良食味水稻品種の育成



稲武 2 号（平成 16 年品種登録）

ジネンジョの省力的多収栽培技術（平成 26 年）の模型展示



小ギクの安定生産技術の開発（実施中）



夏秋トマトの高品質・多収栽培法の開発（実施中）



新規鉢花レウイシアの導入（平成 27 年）



ヤマユリの球根養成期間短縮（平成 26 年）

中山間地に適する野菜・花きの選定と栽培技術の確立